

作溝・中干しは遅れず…！ 穂肥は適量を…！

米づくりやまがた日本一運動置賜推進部会（事務局：置賜総合支庁農業技術普及課）

水稻の生育は、平年にくらべて3日程度の遅れとなっています。しかし、ほ場によっては依然として茎数が不足気味ですが、全般的にみて目標茎数に達しているの見込まれます。

また、稲体によるチッソ吸収が遅いため、土壌中に残っているアンモニア態チッソは平年以上に残っている状態にあります。

目標茎数を確保したほ場から直ちに中干しを行い、無効分げつの発生を抑えましょう。

この時期に必要な茎数は…！

〈表1 品種別の目標茎数の目安〉

品 種	目標とする1株あたりの茎数	
	70株植/坪	80株植/坪
は え ぬ き	22~24本	19~21本
コシヒカリ	19~21本	17~19本
ひとめぼれ	23~25本	20~22本
あきたこまち	21~23本	18~20本

目標茎数が確保されたほ場から、すみやかに落水し、作溝・中干し作業に取りかかりましょう。

田んぼが いじょうかんげん=ワク 異常還元 で葉色があがらない時は、いったん落水し、ガス抜きをするのも一手段…。

目標茎数を確保したら直ちに中干しを！

- ◇ 中干しの強さは田面に足跡がつく程度～やや小ひびが入る程度を基本とし、茎数の過剰が予想される場合は少し強めの中干しを行います。
- ◇ 出穂の30日前頃から稲の幼穂が生育する時期となるので、遅くとも7月15日頃までには中干しが終了するよう、計画的に作業をすすめましょう。
- ◇ 中干しの効果を高めるとともに、その後の水管理が順調に行えるように、作溝を実施しましょう。

中干し終了後はきめ細かな水管理で、根の活力維持を…！

中干し終了後は徐々に水にならし、根腐れを防止しましょう。

- 第1段階：走り水（作溝を利用して徐々に水にならししていく）
- 第2段階：飽水管理（足跡に水がしみ出る程度に…）
- 第3段階：間断かん水（2日湛水し、2日落水の繰り返し）

低温が予想される場合は、深水管理で稲体の保護を…。

**今年の稲は葉色が濃い！ 穂肥は減量・控えめで…！
幼穂の発育段階と葉色の低下を確認して…。**

- ◇ 田植えが遅かったほ場や活着が不良だったほ場では、依然として3日程度の生育遅れと見込まれます。
- ◇ コーティング肥料、有機質入り肥料の場合は穂肥時期を5日程度早めましょう。
- ◇ とくに倒伏しやすい品種は、葉色の低下状況を確認してから穂肥を実施します。
なお、穂肥時期になっても葉色が低下しない時は、減肥対応とします。

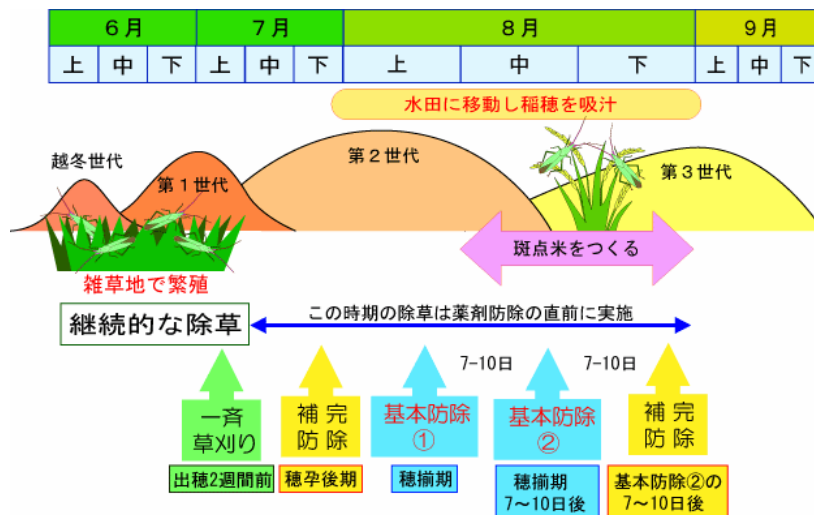
〈表2 品種別の穂肥時期と量の目安〉

品 種	穂肥の適期	穂肥のN成分量
あきたこまち	出穂20日前	2.0 kg/10a
ひとめぼれ		1.5 kg/10a
は え ぬ き	出穂25日前	1.5~2.0 kg/10a
コシヒカリ	出穂15日前	1.0~1.5 kg/10a
その他品種	出穂20日前	1.5~2.0 kg/10a

〈表3 幼穂長と出穂前日数〉

幼穂の長さ (mm)	出穂前日数 (日前)
1.0	26
1.5	24
2.0	20
8~15	18
80	12
20cm	4

斑点米カメムシ類による被害を未然に防ごう…！



〈図1 カメムシ類の生息状況に応じた防除対応で被害の撲滅を！〉

- ◇ 常日頃から、カメムシ類の生息地となる雑草地などをきれいに管理し、増殖を抑えることが重要です。
- ◇ 畦畔、農道、土手などの雑草の刈取りを、7月20日頃まで終えましょう。
- ◇ 休耕田も含め、地域で一斉に草刈を行うとより効果が高まります

農薬の使用に際しては、使用基準を再確認し正しく使いましょう…！

農薬情報は山形県が運営する農業情報サイト『やまがたアグリネット(愛称:あぐりん)』
<http://agrin.jp/>を参照ください。